

# 2014年夏 日本の立ち位置

日本総合研究所理事長 寺島実郎

- \* 日本を覆っている二つの空気が
- \* 日本人が日本株を売る理由
- \* 新興国へ流れていたマネーが逆流
- \* アメリカ経済を急回復させた2つの要因
- \* 年金資金で株価を下支える思惑
- \* 川上インフレ、川下デフレの日本
- \* 拡大する格差と貧困
- \* なかなか実行計画が見えない成長戦略
- \* 中央リニアを前倒しする意味
- \* これからはサービス産業の高度化も不可欠



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日は改めてご紹介する必要もないと思いますが、寺島先生においでいただきました。内外いろいろな変化がございますし、日本の行く末についても、皆さんの中にはご懸念のある方もいらっしゃるかと思います。巷にあふれている情報だけ信じてても何かちよつとおかしな方向にまいますので、今日は寺島先生に世界の情勢、日本がその中でどういう立ち位置を保つべきか、じっくり伺わせていただきたいと思えます。

それではよろしくお願いいたします。（拍手）

寺島 寺島でございます。こちらには定観測のように参加させていただいております。

お手元にあります『寺島実郎の時代認識と提言』という資料集はちょうど初夏号に切り替え

たところです。この中に特別添付資料を三つつけております。まず一つは、生命史と人類史の射程から考える現代です。今日このお話をする時間的余裕はありませんが、このところ私は思い切り長い射程の中から現代を炙り出していく必要があると思ひまして、九段にあります寺島文庫に人類史、生命史に関する本を集積してきています。それを読み込みながら、今われわれが生きている時代をどういうふうに捉えたらいいのかという、知的な試みをしております。

最近、グローバルヒストリーというジャンルが世界史の中でも非常に注目を浴びてきておりまして、ご存じの方も多いいと思いますが、日本人で教養のある人でも、高校時代など世界史、東洋史、日本史というふうに分けて習っていて、